

環境監視計画の取り組み状況報告

監視報告期間：平成30年12月1日～平成31年4月30日

	項目	監視内容	監視結果
1	重要種の保全対策 【概要】 事前調査で確認された重要種である動物(オカヤドカリ類)及び植物(ハリツルマサキ、オキナワツケイ等)への配慮並びに発見した場合の対処方法	(保全対象貴重動植物) 重要植物 ハリツルマサキ、オキナワツケイ、ヘツカニガキ、エダウチャガラ 重要動物 オキナワコキクガシラコウモリ、小型コウモリ類、ヒメフチドリゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、オカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ	日々、重要動物の目視確認を行っているが、現在までその存在は確認されていません。重要植物については、ハリツルマサキ10株、エダウチャガラ1株の移植後の監視を行い、良好な状態で生育しています。
2	粉じん防止対策 【概要】 造成工事及び資材等の運搬による粉じん防止対策に伴う散水、清掃等の範囲、方法等の監視計画	監視範囲は現場内及び旧国道449号とし、日々午前・午後2回及び必要に応じて適宜行う。監視方法として、現場車両にて巡視を行い、粉じん対策管理表に基づき確認し、必要に応じて散水を行う。	現場周辺道路旧国道449号線等の巡視を行うと共に、現場車両が現場外に出る際は、タイヤ泥汚れ等をタイヤ洗場及びジェットー等を使用して泥汚れ等を落として運搬作業を行い良好でした。
3	排出ガス対策 【概要】 排出ガスの発生を抑制するための監視計画	工事中建設機械を監視対象とし、機械搬入・搬出時に確認を行う。また、アイドリングストップの励行を行うとともに、無駄な空ぶかしを行わない。	建設機械等の搬入時は、排出ガス対策型機械であることを証明資料により確認し搬入しました。又、アイドリングストップ、空ぶかし等の抑制を指導し、実施しています。
4	赤土等流出防止対策 【概要】 沖縄県赤土等流出防止対策条例に基づく赤土等流出防止対策の監視計画	旧国道449号道路側溝2箇所、施工箇所1箇所を監視範囲とし、降雨時(2回/日)その他必要に応じて適宜行う。	雨天時に、旧449号道路側溝及び現場内等の見回りを毎回行いましたが現場内から赤水等が流出することなく良好でした。又、場内沈澱池で対応できたため、現場外公共排水溝への放流はありませんでした。
5	騒音・振動防止対策 【概要】 騒音・振動の発生を抑制するための監視計画	騒音・振動調査を施工前1回・施工中1回/年に行う。	騒音・振動調査を再度H31, 2月に実施しましたが、騒音で60dB未満、振動で30dB未満でも良好でした。
6	地下水(水位)調査 【概要】 建設地周辺や下流域の環境への影響を把握するための地下水調査	貯留槽の上流側1箇所、下流側1箇所について地下水位調査を行う。	地下水水位を連続記録型機器により自動計測した結果、施工前とほぼ変動なく良好でした。